

秋田栄養短期大学・学修目標への到達度セルフチェック調査報告書

本調査の目的

●本調査は、秋田栄養短期大学栄養学科の教育の更なる充実のために秋田栄養短期大学栄養学科が策定している学修目標への到達度を調査した。

●学生自らが点数化した学修目標への到達度セルフチェックから、前期及び後期の知識、技能、態度の項目を定量化して検討した。

調査方法

●学生が提出したセルフチェック用紙の知識、技能、態度の各項目の点数から、三項目の合計点を求めた。また、全体の合計の点数は、知識、技能、態度それぞれ点数を合計した。下記のように、知識、技能、態度、合計(知識+技能+態度)の値を算出し、前期と後期で値の変動を評価した。

①知識(%)=知識の点数÷知識の満点×100

②技能(%)=技能の点数÷技能の満点×100

③態度(%)=態度の点数÷態度の満点×100

④合計(知識+技能+態度)(%)=合計の点数÷合計の満点(知識+技能+態度の満点)×100

●それぞれの点数を満点で割って求められた割合を令和3年度前期及び後期でExcel 2019を使用してStudent's t検定を行った。また、 $p < 0.05$ の水準で有意であるとみなした。

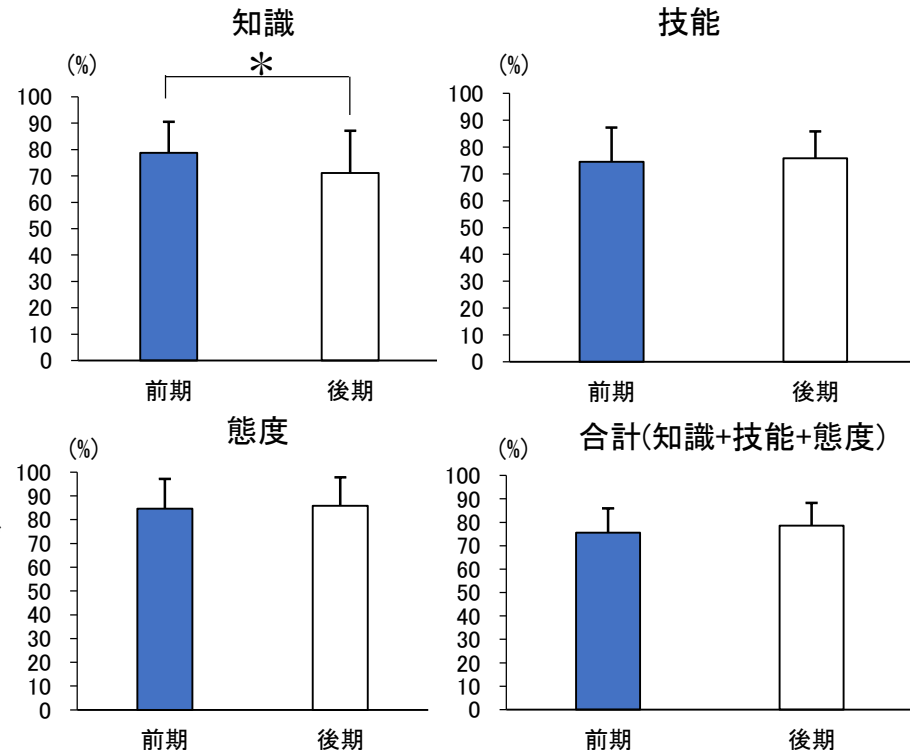


図1 セルフチェックから定量化された知識、技能、態度及び合計(知識+技能+態度) 値は平均値±標準偏差(n=26)

*: 前期と後期で比較して有意差あり($p < 0.05$)

調査結果及び今後の展望

●秋田栄養短期大学栄養学科の学修目標への到達度を評価すると、知識が前期と比べて、後期で有意に低下したが、技能、態度、合計(知識+技能+態度)は前期と後期ともに維持されていた。

●短期大学では1年に履修する科目が4年制大学と比べて多いことや、1年前期と比べて授業の内容が1年後期で高度化したため、知識が後期で低下されたかもしれないと考えられた。また、1年を通して学生の意欲を削がれてないことが分かった。

●本調査の結果から秋田栄養短期大学栄養学科の学生は、栄養士になるために高い意欲を持って学んでいると言え、教員一同は、学生の勉学をサポートするために更なる尽力を行おうと計画を立案中である。